

2021年度 精神看護学セミナー[令和3年7月10日(土)] レポート

これまで大学構内で行ってきた精神看護学セミナーですが、今年度も新型コロナウィルスの感染拡大に配慮し、Zoomを使用したオンラインにて開催いたしました。テーマは「二つの“なごみ”が目指す地域包括ケア“三春での地域密着型訪問看護からの出発”“相双での精神保健医療福祉サービスからの出発”」とし、県内外から47名の方々にご参加いただきました（うち在校生や卒業生・修了生を含め、本大学の同窓生には21名にご参加いただきました）。

“三春での地域密着型訪問看護からの出発”については「株式会社ふくしま在宅保健医療福祉研究所なごみケア訪問看護ステーション」より本大学の卒業生でもある菅原宏大代表をお迎えし、学生時代から構想していた事業所立ち上げまでの経緯や、大切にしている看護観や事業所の理念についてご発表いただきました。

“相双での精神保健医療福祉サービスからの出発”については「認定NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会（なごみ）」よりチーム精神看護の大川貴子から、震災後の心のケアチームの発足から「なごみ」に発展していくプロセスを説明し、実際の訪問支援の映像を視聴してもらいました。また現場の中から得られた知見やスキルについて発表いたしました。

後半のディスカッションでは、本大学看護学部精神看護学領域の教授であった中山洋子先生をお迎えし、多職種での理念等の共通認識の持ち方、病院から地域のサービスや行政職と繋がる方法、訪問支援のヘルスプロモーションの参入やシステムを含めた地域づくりなどについて活発な意見交換が行われました。

看護の力については「そっと支える・そっと添う」「Nursing is Art and Science」という言葉も語られ、そうした力を看護職や他職種へどのように伝授していくかということも話し合われました。

参加した方々からのアンケートでは「お二方の発表者のお話を聞くことができ、自分の狭まっていた視野が広がる感覚がありました。なごみでの映像ではなみだをボロボロながら見せて頂き、愛ある看護、温かい看護、そっと支える支援を今後もずっと考えていきたいなと思います。」「今回、セミナーに参加して個人に寄り添う看護ってやっぱり良いなと再認識しました。訪問活動している方たちが何を大切にしているか聞くことができ、利用者のためにどのように生活を支えるかが具体的な事例が紹介され勉強になりました。」といったご感想が寄せられました。

今後も精神看護学セミナーでは新たな知見を参加者の皆様と共有できる機会を作りたいと思います。